

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	平成27年 9月11日
名 称	平成27年度第2回未来創生委員会		
日 時	平成27年9月2日 午前 ・午後 10時00分～12時20分		
場 所	安平町役場早来庁舎（第2会議室）		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹、高橋主査 北 海 道 胆振総合振興局地域政策部戦略策定支援担当部長 高見芳彦氏（随行1名） 委 員 未来創生委員会委員12名（大館委員、西村委員の2名が欠席） 外部有識者 北海道銀行地域振興・公務部地域戦略部長 坂本眞 株式会社道銀地域総合研究所取締役常務執行役員 浦田祥範 F P オフィス・サポート代表 星洋子 3名（菅原外部有識者が欠席）		
会議概要	<p>1 開会（進行：木林企画財政課長） ◇半数以上の委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇前回の会議では、役場側から安平町の人口減少の現状の説明を受けたわけだが、日本の人口が減少し続ける中、安平町も2040年、今から25年後には5,897人まで減少するという推計であり、いかに歯止めをかけていくべきか考えていかなければならない。 ◇本日は、事務局から示された総合戦略の素案に対するご意見とともに、事前に配布された具体的な施策に対するアイデアの検討を進めていく。 ◇活発なご発言により実りある会議となることを希望する。</p> <p>3 未来創生委員会委員（前回欠席委員）及び外部有識者の紹介 ◇川崎委員、瀬田川委員による自己紹介</p> <p>◇外部有識者による自己紹介（事例等の説明に関して以下のとおり）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><北海道銀行地域振興・公務部地域戦略部長：坂本様></p> <ul style="list-style-type: none"> ●金融機関が国から求められている役割 → 安心して働ける雇用の場の創出 ●これを受け北海道銀行では「道銀地方創生本部」を設置し、推進体制を構築 ●北海道銀行では現在、道外から道内への移住・住みかえを促進するため、「(一社)移住・住みかえ支援機構」と連携した新規ローン商品を創設する予定 ●北海道の特色を活かした6次産業化を促進するアグリビジネスファンドを展開。農業生産者と加工業者による6次産業化事業体にファンドから出資をするもの。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><株式会社道銀地域総合研究所取締役常務執行役員：浦田様></p> <ul style="list-style-type: none"> ●金融機関の関連会社として、地方創生については、まず仕事を作り、仕事をする人を作り、最終的には「まち」をどうするかという視点で取り組んでいる。 </div>		

- 下川町で産業活性化マネージャー業務を受託し、後継者全国公募事業、企業化支援を行っている。

<FPオフィス・サポート代表 星様>

- 栗山町では若者定住推進室を平成26年に設置。「くりやまライフサポーター事業」を実施。その手伝いを行っている。
- ねらいは、若者・子育て世代の金銭的な不安を取り除き、栗山町で安心して結婚・出産・子育てできる環境を整える仕組みづくりである。
- ファイナンシャルプランナーとして様々な家庭の家計に関する相談業務をしていることや、自身が子育て経験者であることから、声がかかったもの。
- 町民セミナー、町民の家計簿診断、無料相談会を実施している。
- 町民の声を第三者として聞き、行政へ伝えることで、どのポイントに行政支援を行うべきかを探るといった目的もある。
- 子育て期間は長い。安平町でも若い世代に長期的な見通しを示すことで、安心して暮らし続けることができるまちづくりが可能ではないかと考えている。

4 議事（議事進行：小林委員長）

- (1) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について（説明：企画財政課 岡）
- ◇未来創生委員会の役割は、最も重要な「総合計画」と、先行して策定する必要のある「総合戦略」に対するご意見と進行管理。
 - ◇この先行して策定する必要がある「総合戦略」について、全体イメージがあった方が議論の方向性をつけやすいと考え、7月中でたたき台・素案を作成し、前段で皆様に資料を送付したものである。
 - ◇本来は、皆様の議論の積上げから将来像を固め、これに向かう施策・事業を検討した上で、たたき台を作成するべきところだが、国から求められている策定期限の関係や、当町ではこの戦略策定を委託せず、職員手づくりで行っているところもあり、本来の計画づくりと異なる手法となっていることをご了承いただきたい。
 - ◇ポイントを説明し、全体像についてご意見をいただきたい。
 - ◇なお、本日欠席となった外部有識者である北海学園大学の菅原教授から、この計画づくりの根本論について、ご指摘を頂戴している。皆さんからご意見をいただく際に紹介させていただきたい。

[全体像：ポイント]

- ・前回6月18日に開催した第1回目の会議で頂いた、皆様からのご意見をたたき台に盛り込んだ形で構成。（「子育て世代に選ばれる町だけでなく、今住んでいる人たちが不安なく過ごせる町が人口減少対策である。」「楽しいまちづくり」「菜の花など可能性のある特産物を生かした産業創出」「地域内経済循環」「交通インフラ整備」「自然豊かな田舎に住みたいという首都圏住民にアピールできる風景の維持・環境整備の重要性」などの意見）
- ・安平町の「いびつな人口構造」をどう改善していくかがカギであること。
- ・基本的な考え方は、次の3ポイント（素案21p）
 - ①国の政策に沿った出生率の向上
 - ②子育て世代に選ばれる町として、生産人口の流入を図る
 - ③高齢者の転出が多い現状を踏まえ、将来の不安を取り除きいつまでも住み続けられるまちを目指す

- ・将来展望人口は、この基本的な3ポイントを具現した場合の想定人口を算出。
- ・社会増を実現しても、自然減（出生－死亡）を超えることは困難。下降カーブの緩和が目標となる。2040年5,897人→6,657人へ緩和（素案23P）
- ・展望人口を実現するための基本目標と施策の方向性について体系化（素案32p）
 - *安平町の地理的ポテンシャルを活かし、子育て世代の転入促進と少子化対策、町民が生涯住み続けられる町を実現するための基本目標を4つ定めるとともに、これらを実現するための施策の方向性を6つの分野に分けて、それぞれ具体的施策をぶら下げる体系としている。
- ・具体的な施策については、現時点で実施している施策を掲載しているが、これについては、委員からのアイディア・意見や行政内部の検討専門部会での議論を通じ、内容を精査していく。（素案33P-46P）

<委員意見>

田中委員： 行政的な意味で体系として全て網羅されていると思うが、安平町として独自の未来を創生していこうという意味では、あまりに項目（施策）が多すぎて、何をポイントとしようとしているのかが絞りきれないように思う。

この安平町を支えているのは基幹産業である農業であると自分は考えるが、こうした部分をベースにもっと絞り込んだ施策とするべきではないか。

企画(岡)： ご指摘の部分は担当としても実感している。

田中委員からのご指摘の部分に関連し、この委員会の外部有識者である北海学園大学の菅原教授様からも今回の素案に対する根本的なご指摘を頂戴した。

ご指摘では、本来計画づくりでは、この町にはどのような地域資源があり、何に強みがあり、何に弱みがあるのかを洗い出し、目指すべき方向性を確認する中からテーマであるとかキャッチフレーズが生まれるものである。

しかし、今回の戦略素案では、国の考え方（目標）に沿った施策を総花的に出した上でキャッチフレーズを後から設定しようとしている。

そうすると、キャッチフレーズも総花的なぼやけたものにせざるを得ず、結果的にどこの町でも通用する特色のない計画となるのではないかというご意見であった。

さらに、この総合戦略をゼロベースで見直せないのであれば、キャッチフレーズは総合戦略で付けるのではなく、これから策定する最も重要となる「総合計画」でしっかりと地域分析を行い、将来像を導き出してからテーマを定めるべきというご提案もいただいている。

菅原教授からのご指摘、ご意見、ご提案は、田中様からのご意見と共通している。田中様は、安平町の人口減少対で本当に伸ばしていくべきポイントは何かを絞って施策を検討すべきというご意見である。

この総合戦略は、国から求められている基本的考え方や策定期限との兼ね合いもあるが、重点施策の絞込みについては、総合戦略の素案33P以降の中で工夫させていただくとともに、根本的な問題であるこの安平町の強みや

弱みの分析と「目指すべき将来像」と「テーマ」の設定については、「総合計画」の策定で考えていく。

よって、総合戦略のキャッチフレーズについては、これを定めないことで修正していくこととしたい。

「総合戦略」と「総合計画」をしっかりと分けて考えたい。

田中委員： 総合計画と総合戦略を分けて考えるという部分を再度説明いただきたい。

企画(岡)： 本来、人口減少対策は、町の長期総合計画の下にぶら下がるものであるが、策定年度の違いから、安平町では、先に人口減少対策である総合戦略を策定しているため、地域資源、強み・弱みをしっかりと議論しないまま、人口減少対策（総合戦略）を検討している。

この計画づくりの入口で最も重要となる議論については、総合計画の策定においてしっかり行っていくという考えである。

<補足させていただきます。>

- ①まち・ひと・しごと創生総合戦略 → 施策検討作業を進め、年内に策定。
- ②次期総合計画 → 地域資源・強み・弱み検討から行う。

②の議論から導き出された方向性によって、①の施策について見直しを行う。

田中委員： 例えば、素案34ページの「重点的施策例」の記述があるが、既に行っている事業があるとはいいつつ、全てを事業として実施するのは無理があるのではないか。何かの事業に特化して実施すれば、波及効果が生まれるものもある。（1つの支援事業を実施すれば、別制度を作らなくても空き店舗対策につながるなど）

そういった意味で、何がキーなのか、何をベースに取り組めば、波及して全体雇用につながるのか。そういう意味で「絞りこみ」と申し上げた。

一緒に検討していきたい。

(2) 具体的な施策に向けたアイデア出し

- ◇ 2つのテーブルに分かれ、2回にわたってグループワークを行い、委員からのアイデアを頂く。外部有識者の助言をもらいながら、議論を深めたい。
- ◇ 次回の会議9月30日（水）に再度行う。

*上記説明後、各自グループワークに入り、その議論・意見・アイデアの方向性については、現段階で別添資料のとおりである。

5 その他

1) 「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「安平町総合計画」（議案5P)

- ◇今優先して策定しなければならないのは「総合戦略」、そして最も重要となるのはこの後策定する「総合計画」
- ◇「総合戦略」は将来のまちづくりを進める上での課題の1つであり、この将来のまちづくりという根本の部分の議論を進めていく必要がある。

- ◇次回の会議から、しっかりと分けて議論をしていきたい。
- ◇安平町の「地域資源」「強み」「弱み」をしっかり認識し、10年後の将来像というものを作り上げていく議論を行っていくためのスケジュールを示して行きたいと考える。
- ◇なお、9月7日より、この総合計画策定に向けた町民アンケート調査を行うこととした。
- ◇総合計画の策定に向けて、皆様にも様々なご協力をいただきたい。